

医療目指す高校生に奨学金

東日本大震災の被災地を支援した国際医療救済団体「AMDA」

(北区)の菅波茂代表は25日、北区で記者会見し、被災地での緊急医療支援活動を報告し、今後の復興支援活動について発表した。岩手県大槌町の大槌病院と宮城県南三陸町の志津川病院を支援する3力年計画や、医療人を目指す両県の高校生に奨学金を支給することなどを明らかにした。【江見洋】

東日本 大震災

岩手 大槌病院 宮城 志津川病院 支援へ



AMDA 被災地で巡回診療

医療支援では、岩手大槌町で協力を得た避
難所リーダーや高校生
たちと連携するための
組織を結成。今後、現
地のニーズを伝えても
らったり物品の配布な
どを担当してもらうと
いう。

奨学金は被災地で活
動した海外医療チーム
とAMDAなどが共
催。岩手の大槌、釜石
と宮城の志津川の3校
が対象。各学年5人の
計15人に月1万500
0円を在学中、支給す
る。

菅波代表は「西日本
での大災害時に支援し
てもらうという意味も
含めて、岡山から支援
を続けたい」と話して
いる。

病院支援は、大槌病
院と志津川病院に今後
3年間、年3回、医療
器具の提供や医療スタ
ッフを派遣する。また

被災地支援について語るAMDAの菅波代表(左)